

【地域活性化総合特区】あわじ環境未来島特区

【兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市】

【目標】

『生命つながる「持続する環境の島」をつくる』

・淡路島の最大の強みである恵まれた地理的条件を生かし、子どもから高齢者までが充実した生活を送ることができる「エネルギーが持続する地域」「農と暮らしが持続する地域」の実現を目指す。

【取組概要】

- ・事業者等による未利用地等を活用した太陽光発電設備及び蓄電システム等の整備、バイオマスエネルギーの導入促進(地域活性化総合特区支援利子補給金の活用)
- ・地域新電力事業の拡大等によるエネルギーの地産地消の促進
- ・CO2削減効果の高いモビリティの導入促進、水素社会の実現に向けた技術開発の促進
- ・企業の農業ビジネス参入拡大による「北淡路先端ファーム」の形成促進
- ・淡路島の食ブランドの発信、「あわじ島まるごと食の拠点施設」の活用推進等による食を中心とした地域づくりの推進
- ・豊かな自然や日本遺産等の魅力発信等による交流人口の拡大や定住人口の増加に向けた環境整備

○評価指標及び数値目標

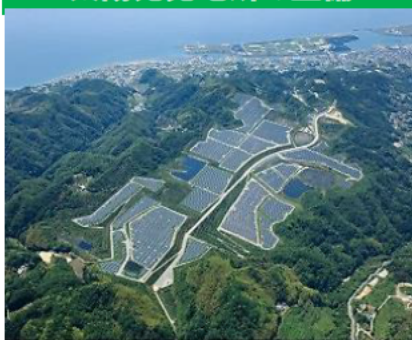
評価指標	現状値 (R2年度)	目標値 (R8年度)
＜エネルギーが持続する地域＞		
1) エネルギー（電力）自給率	59.6%	67.7%
2) 二酸化炭素排出量	2013年度比▲11.5%	2013年度比▲33.4%
3) 次世代自動車登録台数	397台	2,300台
4) 水素エネルギー関連施設数	0基	2基
＜農と暮らしが持続する地域＞		
5) 新規就農者数	65人/年	80人/年
6) 再生利用が可能な荒廃農地面積	346ha	320ha
7) 一戸当たり農業生産額	324万円 (R1年度)	330万円
(代替指標) 島内農家一戸当たりの島内農協の野菜販売高	175万円 (R1年度)	178万円
8) 持続人口【定住人口+交流人口】	14万8千人	16万6千人
(うち、定住人口)	12万6千人	12万1千人
(うち、交流人口)	2万2千人	4万5千人

淡路島の概要



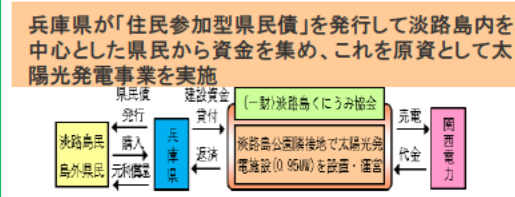
- ◆面積: 590km²(シンガポール、東京23区と同規模)
- ◆自治体: 3市(洲本市・南あわじ市・淡路市)
- ◆人口: 125,541人、高齢化率: 38.2%(2022年2月)
- ◆産業: 農漁業・観光業・地場工業
- ◆特徴: 豊富な水産資源を生かした漁業が行われ、また、日照時間が長く、年中を通して温暖な気候であることから農業(3毛作)も盛んである。

大規模未利用地を活用した太陽光発電所の整備

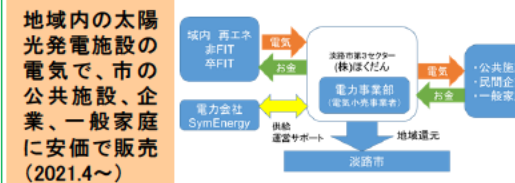


総合特区支援利子補給金を活用し、大規模太陽光発電所の整備を推進
 ○出力1MW以上の施設(2021年9月末) 全53カ所、出力計180MW

住民参加型くにうみ太陽光発電所



電力の地産地消



「北淡路先端ファーム」での農業ビジネス参入促進



未利用農地活用のため、公募事業者の営農計画に合わせた基盤整備を推進し、新たな農業ビジネスの参入を促進
 ○貸付面積: 69.4ha (2021年3月)

あわじ島まるごと食の拠点施設の整備・運営



「食を核とした都市と農村の交流拠点」をコンセプトに、あわじ島の豊かな食材を丸ごと味わう、買う、体験する施設を整備・運営